

コンソーシアム・グループ活動記録

日 時：2005年10月12日(水) 10:00～14:30

場 所：法政大学(市ヶ谷)

参加者：小野(東邦大学) 坂下(法政大学) 伊藤(立教大学)

議事録：伊藤

内容

調査報告

各自が、前回のグループ会議で分担調査した結果および関連資料をもとに説明を行った。

伊藤：ILSCO, CARLI の調査結果報告および参考文献紹介(コンソーシアム全般)等

坂下：「コンソーシアム成功の秘訣」について(項目を抽出し、まとめたもの)

小野：海外の成功しているコンソーシアムの事例について各種紹介

GALILEO, NEOS, CRIARL, TEXSHARE) 等、その中で特に、Tampa Bay Library Consortium

(以下、Tamp と標記) についての概要および活動内容について説明

今後の研究の進め方について

12月の学会発表および論文作成にあたって、研究の方向性およびポイントをどこに絞るかについて討議を行った。結果として、成功しているコンソーシアムの事例として紹介された Tampa Bay Library Consortium を中心にとりあげること、加えて補助金、コンソーシアム成功の秘訣について取り上げるようになった。

研究報告大会発表用パワーポイントの構成について

1 コマ割りおよび担当を決定

0 タイトル 小野

1 まえがき(文献調査の結果、米国コンソーシアムの実態、Tamp を選んだ理由) 小野

2 Tamp (概要、歴史、ミッション) 小野

3 Tamp (組織、運営、メンバー館) 小野

4 Tamp (利用者サービス) 伊藤

5 Tamp (メンバー館へのサービス) 坂下

6 Tamp

7 Tamp (5か年計画) 小野

8 補助金・寄付金 小野

9 補助金・寄付金 小野

10 コンソーシアム成功の秘訣 坂下

11 コンソーシアム成功の秘訣 坂下

12 まとめ

2 作業手順

10月24日(月)を締切りとして各自が分担部分のパワーポイントを作成。画面に対応する発表原稿も付記する。小野さんが集約して1つにまとめ、その後伊藤、坂下さんの順番に訂正を回す。

今後のグループ研究の進め方について確認

あくまで論文作成が最終目的である。可能な限り早急に論文執筆にかかることが必要である。次回グループ研究活動(11月9日)で研究報告大会のパワーポイントに区切りをつけ、その後はすみやかに論文執筆にむけて作業を進めていくことが確認された。

以上